



表 男 坂 参 道

愛宕神社

参拝のしおり

東京都港区芝愛宕町一ノ十（〒105）

愛宕山

愛宕神社々務所

電話東京（四三三）〇〇三二七番
（四三四）〇〇一七番

〒105 東京都港区愛宕1丁目5番3号

愛宕神社々務所

電話 03-3431-0327 番

芝愛宕神社参拝の榮

鎮座地

愛宕の山に入り残る月を旅路の友として、鉄道唱歌に歌われている愛宕山は都心に現存する名山として著名です。高さは海拔四十五メートル、広さは六千坪と称されます。境内には樹木鬱蒼と生い茂り、正面八十六段の男坂は、曲垣平九郎が馬にて登攀したことはあまりにも有名であります。春は桜、秋の観月四季折々の風情に富んだ山姿は風光明媚な所と憩の場所として親しまれて居ります。

岡象^{みす}、命^{いのめ}（水の神）

御祭神 火産靈命^{ほむすびの}（火の神） 大山祇命^{おおやづの}（山の神）

日本武尊^{やまとたけるのみこと}（武徳の神）

境内末社

太郎坊神社 祭神、猿田彦神

福寿稻荷神社 祭神、宇迦御魂神

勝軍地藏尊 勝軍地藏菩薩

普賢大菩薩（巳年、辰年、守本尊）

祭日

大祭 九月廿二、廿三、廿四日

中祭 六月廿四日（千日詣、はぐずき縁日）

月次祭 毎月廿四日

鎮座 慶長八年癸亥九月廿四日（徳川家康公江戸に幕府を設く 一六〇三年）

慶長八年幕命に依り奉行石川六郎左衛門尉飯殿を建立し幕府の尊崇あつく、慶長十五年庚戌本社を始め末社仁王門、坂下総門、別当所等將軍家の寄進に依り建立されました。

元和三年二代將軍秀忠公。武蔵国豊島郡王子村に社領二百石を寄進され、祭礼等にはその都度下附金の拝領を得ていました。

その後、嘉永二戊年中（一八六二年）江戸大火災に罹り社殿その他悉く烏有に帰しましたが、明治十年九月本殿、幣殿拝殿、社務所の再建がなりました。

大正十二年九月一日関東大震災にあい又昭和二十年五月二十四日帝都大空襲に依り太郎坊神社を残し社殿一切灰燼に期しましたが、昭和三十三年九月氏子中の寄附により御本殿、幣殿、拝殿、等を再建現在に至りました。

今年も参拝、

境内地 参千七百五十坪（一一、五五八・二五平方メートル）

石碑 明治十年二月上野の役に於て東京警視第二方面第一分署警部巡查戦死之忠魂碑（題字は陸軍大将兼元老院議長二品勲職仁親王御筆、一等編纂官巖谷修書明治十二年六月建之）

蜀山人、智恵内子、朱良管江等の狂歌合長者園撰之碑

（願主雪廬家富士丸元治元年三月建之）

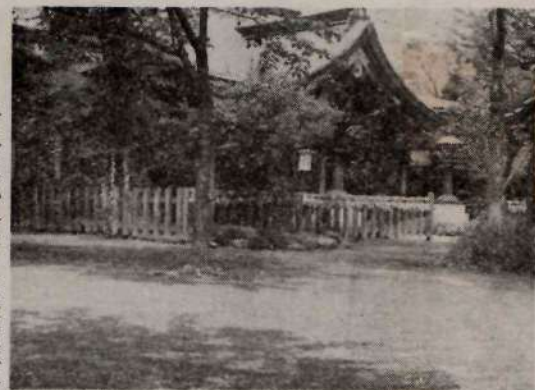
起倒流拳法之碑（安永八年二月建之）

万延元年三月三日桜田事変之碑

十二烈士女の碑（昭和廿年八月二十二日当山に於て割腹自刃）

史蹟

曲垣平九郎手折の梅樹



にとどろかしたことは有名です。

明治十五年六月六日宮城県人強心流馬術師、石川清馬同じく騎馬にて上下し、降って大正十四年十一月八日参謀本部々員岩木利夫入部以来手塩にかけた愛馬（平形近く魔馬として民間の手に渡るを痛く惜しみ、東京帝国大学乗馬倶楽部の遺棄の際、当山坂下にさしかかった時馬首を翻えし、当表坂を騎馬にて上下し、皇国馬術の妙技を披露したことは、当時の参謀総長河井操大将より今上陛下御前講演に及びました。

（三五〇年来騎馬にて上下せし者三名なり）

又、万延元年三月三日、桜田事変の大壮挙を演ぜし幕末の志士、有村治左衛門並に水戸浪士の一党早速降り積む雪を冒し当山に集り、社前に神の加護を念じて其の目的を達す。桜田事変なるものは、水薩の志士協力して、井伊大老を斃し、至尊を奉じて天下に大義を唱えんとしたものです。

尚、明治元年三月十三日官軍江戸城を攻むるに当り、幕軍の将勝安房守海舟、官軍の参謀西郷隆盛を誘い当山に登り眼下に見る大江戸の繁華なる市街が兵火のちまたとなすことをうれい、遂に西郷をして同意させ談笑裡に江戸城授受の議を処決した地として明らかです。（調印の処は今の三田電車車庫の地）

昭和二十年八月十五日廟議降伏に決するや、厭起して木戸内府邸を襲い、この愛宕山に籠り所在の同志と呼応、天日を既望に回さんとする尊攘義軍十烈士たちも、遂に二十二日午後十時、相擁して皇国の不滅と聖寿万歳を唱え手榴弾にて一瞬に玉砕されました。時俄に黒風暴雨満山を蔽ひ護国の志士等を悼むかの如き有様でした。二十七日払暁二夫人亦従容として志士等のあとを追って自刃されました。この忠霊芳魂永遠に山上に眠り今に絶ゆることなく慰霊の祭典が執り行なわれております、遺烈万古尽くる時なからん。

天なるや秋のこだまかとこしえに

愛宕の山の雄たけびのこえ

江戸名所俗謡

お伊勢七度び熊野へ三度び

芝の愛宕へ月まいり

愛宕神社千日詣り

六月二十四日は愛宕の千日詣りといひ、当神社創草の時からこの日社頭に参拝すれば平日の千日、或は四万六千日分の御利益があるといつて大勢の人の参拝があつたと伝えられています。又、この日々ほほづきを縁起に出す謂れは昔、愛宕宿様のお告げをうけた人が愛宕山のほほづきを子供に飲ませれば虫の薬になり、婦人に飲ませれば癩の薬になつたことから靈驗あらたかなゝあたごほほづきとして多くの人に珍重されたといわれます。

「ほほづきの丸薬を売る愛宕山」

と狂句に詠まれる程の名物です。

六月二十四日には山の上にはほほづき屋と露店が出ますので、お家族連れで御参拝下さい。

交通御案内

国	鉄…一〇分	新橋駅より
地	鉄…七分	虎の門より
地	鉄…五分	神谷町より
下	鉄…二分	愛宕山下より
下		東京駅丸の内南口より等々力行
地		東京駅丸の内北口より品川車庫行
下		新橋駅より渋谷行 愛宕山上下車

自動車は山の上まで登るところが出来ます。